

| | | | | | | |
|--|---|-------|--------|---------------|----------|------|
| 授 業 科 目 名 | 社会科教育法Ⅱ | 教 員 名 | 吉村 功太郎 | 免許・資格 との関係 | 小学校教諭 | 選択必修 |
| | | | | | 幼稚園教諭 | |
| | | | | | 保育士 | |
| 授 業 形 態 | 演習 | 担当形態 | 単独 | | こども音楽療育士 | |
| 科 目 番 号 | SID305 | 配当年次 | 3年後期 | 卒 業 要 件 | 小幼コース | 選択必修 |
| 単 位 数 | 2単位 | | | | 幼保コース | 選択 |
| 科 目 目 的 | 教科及び教科の指導法に関する科目（小学校） | | | | | |
| 施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | |
| 一 般 目 標 | <p>小学校社会科の授業構成（問い—教材—答のサイクルによる目標の達成と評価）の方法や教師の指導のあり方について修得するとともに、具体的な単元の授業構成を、学習指導案として作成することができる。</p> <p>学習指導案をもとに、模擬授業（マイクロティーチング）を行い、授業実践に必要な基礎的な知識と技能を修得する。</p> <p>(1) 社会科の目標及び内容 学習指導要領に示された社会科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2) 社会科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> | | | | | |
| 到 達 目 標 | <p>(1) 社会科の目標及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導要領における社会科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 社会科の学習評価の考え方を理解している。 4) 社会科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 <p>(2) 社会科の指導方法と授業設計</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 社会科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>小学校社会科教育で優れていると評価されている実践や主要な指導理論・方法を取り上げ、その特色と問題点などについて分析研究する。その上で、中学年の地域学習単元、高学年の各領域単元について、それぞれ学習指導案を作成し、模擬授業を行う。グループ毎に授業研究会を行い、発問・助言の仕方、板書の仕方や板書計画について分析し、授業記録・授業分析等の実践的な方法を身に付ける。</p> <p>アクティブラーニングとして振り返り、レポート等を取り入れる。</p> | | | | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | 本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>社会科教育法Ⅱの趣旨の説明と学習指導要領社会編に示されている各学年の目標、内容、方法と社会科授業づくりの関係を理解する。（目標(1)-1）</p> | | | | | |

| | |
|----------------------|---|
| | <p>第2回：標準的な社会科授業 標準的な社会科授業（北俊夫の実践）を取り上げて、社会科授業の基本的要素（工夫された学習問題や発問・指示、児童の多様な活動によって組織されている学習過程等）を、分析を通して理解する。（目標(1)-2), (2)-1), 2))</p> <p>第3回：教材の面白さから児童の追究心を引き出す社会科授業 教材の面白さから児童の追究心を引き出す社会科授業（有田和正の実践）を取り上げて、その教材が何故に児童の追究心を引き出すのかを、分析を通して理解する。（目標(1)-2), (2)-1), 2))</p> <p>第4回：地域教材による社会科授業 地域教材による社会科授業（佐久間勝彦の実践）を取り上げて、地域教材が何故に児童の社会認識を深めるのかを、分析を通して理解する。（目標(1)-2), (2)-1), 2))</p> <p>第5回：個の社会認識の変容をめざす社会科授業 個の社会認識の変容をめざす社会科授業（長岡文雄の実践）を取り上げて、個の興味・関心から個の社会認識の変容を促す方法について、分析を通して理解する。（目標(1)-2), (2)-1), 2))</p> <p>第6回：地域学習単元（市町村レベル：第3学年、都道府県レベル：第4学年）に関する内容研究ワークショップ グループに分かれ、「地域学習」の単元の一つを選択し、内容研究と授業過程（授業の流れ）作成を行う。（目標(1)-4), (2)-1), 2), 3))</p> <p>第7回：地域学習単元による学習指導案作成 各グループで作成した授業過程（授業の流れ）を学習指導案に具体化する。（目標(1)-4), (2)-1), 2), 3))</p> <p>第8回：地域学習単元による模擬授業（マイクロティーチング） グループの代表による模擬授業（マイクロティーチング）を行う。終了後、相互に評価しあう。（修正後、提出を求める）（目標(2)-4))</p> <p>第9回：第5学年「国土と産業の学習」によるワークショップ グループに分かれ、「国土と産業の学習」（第5学年）の単元、国土と環境、食料生産、工業生産、情報産業・情報社会のいずれかを選択し、内容研究と授業過程（授業の流れ）作成を行う。（目標(1)-4), (2)-1), 2), 3))</p> <p>第10回：第5学年「国土と産業の学習」による学習指導案の作成 各グループで作成した授業過程（授業の流れ）を学習指導案に具体化する。（目標(1)-4), (2)-1), 2), 3))</p> <p>第11回：第5学年「国土と産業の学習」による模擬授業（マイクロティーチング） グループの代表による模擬授業（マイクロティーチング）を行う。終了後、相互に評価しあう。（修正後、提出を求める）（目標(2)-4))</p> <p>第12回：「歴史と政治と国際理解の学習」（第6学年）によるワークショップ グループに分かれ、「歴史と政治と国際理解の学習」（第6学年）の単元の内容研究と授業過程（授業の流れ）作成を行う。（目標(1)-4), (2)-1), 2), 3))</p> <p>第13回：「歴史と政治と国際理解の学習」（第6学年）による学習指導案作成 各グループで作成した授業過程（授業の流れ）を学習指導案に具体化する。（目標(1)-4), (2)-1), 2), 3))</p> <p>第14回：「歴史と政治と国際理解の学習」（第6学年）による模擬授業（マイクロティーチング） グループの代表による模擬授業（マイクロティーチング）を行う。終了後、相互に評価しあう。（修正後、提出を求める）（目標(2)-4))</p> <p>第15回：地域学習、第5学年、第6学年における優れた取り組みについての総括的評価 各グループにおける討議・報告と総括的な評価を実施する。（目標(1)-3), (2)-4))</p> <p>期末試験</p> |
| <p>学生に対する 評価</p> | <p>期末試験60%、課題レポート40%で評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。</p> |

| | |
|-------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。 |
| 時間外の学習について | <p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の内容について、事前に教材資料をわたすので、しっかりと目を通し、不明な点等をあらかじめ調べておくこと。 ・毎回の授業後に、内容について自分の言葉でまとめ、他者に説明できるようにする。 |
| テキスト | <p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』</p> |
| 参考書・参考資料等 | <p>文部科学省検定済 小学校教科書社会 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会』 社会認識教育学会編『小学校社会科教育』（学術図書出版）学術図書出版，2019</p> |
| 担当者からのメッセージ | 特になし |
| オフィスアワー | 授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。) |